



令和7年度福島県地域創生総合支援事業(サポート事業)

【県北地域】活動事例集

私たち、
こんなことやりました！

県北地方振興局管内における令和7年度福島県地域創生総合支援事業(サポート事業)補助事業者
の取組報告です。

福島県県北地方振興局



【令和7年度地域創生総合支援事業(サポート事業)《県北地方》実施事業】

【一般枠】

- 1 「福島のパシタル信夫山を知って・感じて・楽しむプロジェクト」
- 2 「福島市を発信源とした芸術文化の創造」
(作詞・作曲人材育成プロジェクト)
- 3 二本松の子ども達の郷土愛を育む事業
- 4 伊達のパイザンヌ構想 ～里山の伝統的暮らしを次世代に繋ぐ～
- 5 野球・ソフトボールの聖地プロジェクト in 県北
～地域の魅力を伝えよう！～
- 6 創ろう、学生コミュニティ【ダテノワ】
- 7 桑折の魅力彩発見 集客・販路開拓事業
- 8 もとみやロンドンマーケット事業
- 9 キッズドリームミュージアムプロジェクト

【過疎・中山間地域活性化枠(集落等活性化事業)】

- 10 竹・農・地再生プロジェクト
- 11 金谷川の再生と未来を拓く事業
- 12 多様な価値を育む棚田と都市をつなぐ体験交流プロジェクト
- 13 大波DIYプロジェクト
- 14 住みよい石田づくりプロジェクト
- 15 過疎地域月館ピンチをチャンスに！事業
- 16 屋敷道(フットパス)の再生、里山資源の再考(再興)による地域
活性化事業

【市町村枠】

- 17 福島市街なか活性化事業(福島市)
- 18 地域の魅力体験合宿事業(伊達市)
- 19 未来へつなげる 国際交流都市もとみや発展プロジェクト(本宮市)
- 20 こおり宿楽市・楽座事業(桑折町)
- 21 国見町を巡る観光・消費活性化 PR 事業(国見町)
- 22 “ART×国見町”アーティストィックなまちづくり事業(国見町)
- 23 やまきや魅力発信事業(川俣町)
- 24 川俣モノづくり活性化事業 (川俣町)
- 25 国際交流を柱とした地域活性化事業(大玉村)

【市町村枠(連携体事業)】

- 26 ふくしま三大鶏振興事業(伊達市・三島町・川俣町)

【市町村枠(健康関連事業)】

- 27 親子スポーツ・健康事業(桑折町)
- 28 かわまたいきいき健康長寿プロジェクト(川俣町)

新規

『福島シンボル信夫山を知って・感じて・楽しむ』 プロジェクト

〈一般枠〉

【実施団体】 信夫山地域資源活用研究会(福島市)

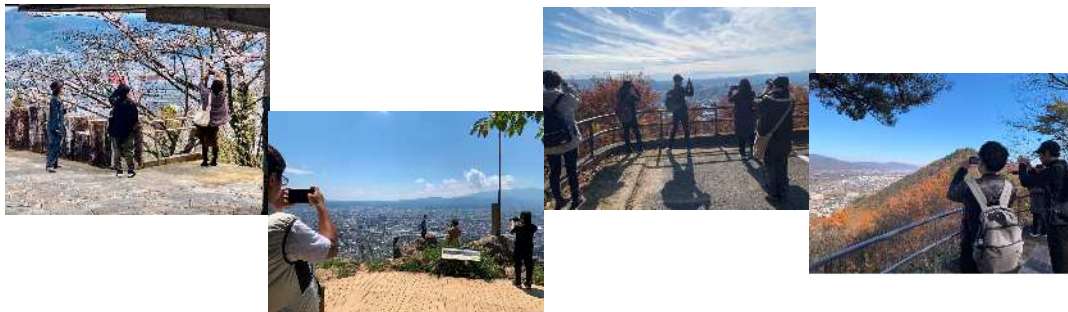
【事業内容】 福島市の街の中心に位置する信夫山は、旧来は修行僧や金鉱山として有名であり、文化や歴史的な資源が豊富な山です。信夫山をもっと多くの方々に「知って、感じて、楽しんで」もらう事を目的とした事業に向け取り組みました。

- ◆四季を通じた信夫山フォトウォークイベント及び写真展の開催
- ◆信夫山で交流する「信夫山マルシェ」開催
- ◆信夫山「北限の柚子収穫体験」と「柚子ドリンク作り」

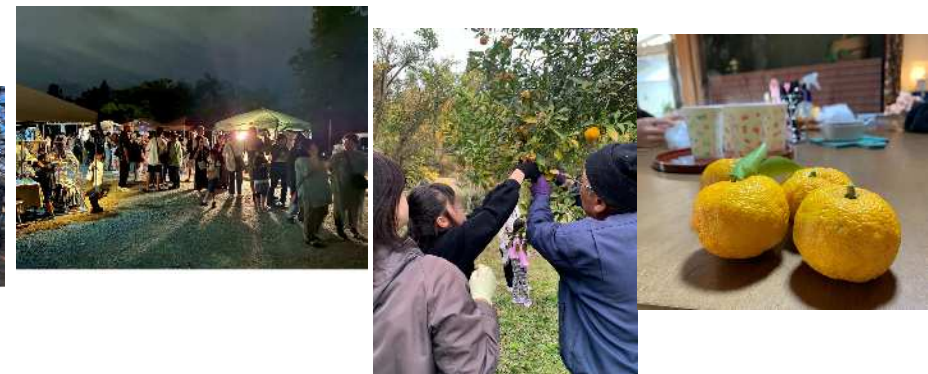
☆ここが自慢です！☆

- 自然豊かな信夫山を撮影しながら歩く事でますます地元への愛着が湧き、また写真を投稿したりアルバムにする事で信夫山を通して街の魅力を発信する事ができる。
- 「信夫山マルシェ」では、ハンドメイド、飲食ブースが並び、山歩きとは違う「賑わい」と「交流」が生まれた。信夫山に登る機会が少ない方にとって、山を訪れる強力なきっかけとなった。
- 柚子収穫とドリンク作り体験では、柚子のもぎたての香りを知り、味わう事で、信夫山への愛着が一段と深まった。
- これらの事業の展開により、信夫山は単なる「通り過ぎる山」から「市民が主体的に関わり、四季の変化を五感で楽しめるフィールド」へとアップデートされた。

(フォトウォーク春・夏・秋)



(信夫山マルシェ) (柚子収穫体験とドリンク作り)



令和7年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）【県北地域】『私たち、こんなことやりました！』

新規

「福島市を発信源とした芸術文化の創造」 (作詞・作曲人材育成プロジェクト)

〈一般枠〉

【実施団体】 芸術文化による福島まち造り実行委員会(福島市)

【事業内容】 若手を中心とした創作活動の人材育成により芸術文化の創造・発信を目的とするプロジェクトです。

県北の自然や伝統芸能もテーマとした作詞作曲を公募し、選出された作品を公開のコンサートで演奏します。

コンサートでの発表・発信と同時に、作詞家・作曲家・演奏者ら創作に係る人材の交流と振興の場となることを目指します。

- ◆ 県北地域の小中学生を対象に歌詞を募集・選出 (2025 年 5 月～8 月)
- ◆ 上記より選出の 10 作品を課題作品として全国から作曲を募集・選出 (2025 年 8 月～11 月)
- ◆ 選出された 10 曲の作品の発表コンサートを実施 (2026 年 1 月 18 日に開催予定)

☆ここが自慢です！☆

○歌詞・曲ともに公募で選ばれた 10 曲が、更に室内オーケストラ版に編曲されて、福島ゆかりのプロの演奏家によって演奏されます。

○交流会やコンサートを通して、作詞の小中学生・全国からの作曲入選者・プロの演奏家・指揮者・編曲者などが交流・意見交換を行います。



令和7年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）【県北地域】『私たち、こんなことやりました！』

新規

二本松の子ども達の郷土愛を育む事業

〈一般枠〉

【実施団体】 公益社団法人 二本松青年会議所(二本松市)

【事業内容】 若者世代が二本松市を誇りに思いファンになるきっかけとして、どこに行っても 誇りを持って楽しく語ることができる二本松の風物詩を創り出す。また、地元商工団体の有志や学生を積極的に巻き込み、二本松市に関わり続けてくれる関係人口として残り続け、同市にインパクトを与えてくれる存在となるきっかけを生み出す。

◆ 「魅力発見ワークショップ」の実施(2025 年 5 月～10 月)

◆ 二本松クエストの開催(2025 年 11 月)

☆ここが自慢です！☆

○魅力発見ワークショップ・フィールドワークを通じて、若年世代と交流しながら二本松市の様々な魅力を学ぶことが出来ました！

○本事業を通じ、二本松の子ども達に同市の魅力を体験してもらい、近隣市町村・県外来場者を通し、市外へ魅力を発信しました！



令和7年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）【県北地域】『私たち、こんなことやりました！』

新規

伊達のペイザンヌ構想
～里山の伝統的暮らしを次世代に繋ぐ～

〈一般枠〉

【実施団体】 伊達の里山文化を守る会(伊達市)

【事業内容】 地域内外の人々が古民家再生や里山体験のワークショップを通じて、地域内外を含む人と人との繋がりを深め、「広域の結」を醸成する。また、里山暮らしに関心をもってもらうことによって、地域の伝統文化や世代を超えた有機的な人間関係を構築し、地元で暮らす住民の意識を高めると同時に、参加者には第2の故郷としての地域への愛着を育み、移住促進など地域活性に寄与することを目標としている。

◆古民家再生ワークショップ(5～9月 全23回) 在来工法による古民家再生体験

◆里山体験ワークショップ(5～11月 全6回) 田んぼの1年

☆ここが自慢です！☆

○地元の大工や左官屋の職人を講師に迎え、土壁、たたき土間といった伝統的な工法を体験できるワークショップを開催！

○田植えから稲刈りに至る田んぼの1年を継続的に体験し、収穫した新米を薪釜で炊き、参加者全員で餅つきもしました。



令和7年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）【県北地域】『私たち、こんなことやりました！』

野球・ソフトボールの聖地プロジェクトin県北 ～地域の魅力を伝えよう！～

新規

〈一般枠〉

【実施団体】 野球・ソフトボールの聖地プロジェクト(福島市・二本松市・伊達市)

【事業内容】 オリンピックを開催したあづま球場を県北地域の地域資源として大いに活用した、スポーツツーリズムを通して、関連する地域資源を活用し、観光振興、健康増進、人づくりに取組み、選手・関係者、観客等に地域産品をPRし、する・みる・支える関係人口により経済効果と地域活性化を図ります。

◆女子野球ジャイアンツ杯福島大会(支援)

◆キャッチボールクラシック2025全国大会中学生の部(支援)

◆中学野球フォーラム(支援)

☆ここが自慢です！☆

○県外からの野球事業参加チームに、リング狩り等を通じて、地域の魅力を発信する取り組みを行った。

○大会等の誘致を通して、トップアスリートを招聘し、地域の子供たちや市民の皆さんとの交流の場を設定し交流人口拡大に活用した。



令和7年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）【県北地域】『私たち、こんなことやりました！』

創ろう、学生コミュニティ【ダテノワ】

〈一般枠〉

【実施団体】（公社）だて青年会議所（伊達市）

【事業内容】 時代が加速度的に変化している近年、学生・若者の生きる力の中で今の時代に大切なものを「主体性」と考え、（自らが考え、責任を持ち行動に起こす力）学生自身が「好きなこと」、「やりたいこと」を実現する団体【ダテノワ】を立ち上げ、地域で活躍する若者を多く輩出する。

ダテノワは高校1～2年生が主体となり、大学生（ダテノワ卒業生含む）がメンターとして支え、地域の大人が支援する中で、学生のチャレンジを皆が応援しようという価値観を地域に定着させる。

◆ダテノワ文化祭（09月27日実施 学生自身が事業を考え、運営するフェスティバル）

☆ここが自慢です！☆

○フェス当日の参加学生が230名により事業構築できました！

○フェス当日の来場者が1日で1万人を超えました。

○ダテノワの活動が各種メディアにも取り上げられ、事業後も個人個人が活躍する「人財」となっています！

○青年会議所の各種大会で取り組みを表彰されました。

（福島県大会グランプリ、東北地区大会グランプリ、全国大会各ブロック協議会推薦賞 部門賞（部門内最優秀賞））

○次年度、イオンモール伊達さんのオープンと協働イベントを実施予定です。



継続

3年目

さいはっけん 桑折の魅力彩発見 集客・販路開拓事業

〈一般枠〉

【実施団体】 桑折町商工会(桑折町)

【事業内容】 地域の魅力と事業者の取り組み等に関する情報を町内外へ広く発信し、「継続的な集客」と「事業者の認知向上・販路開拓」に繋げることを目的とし、事業者自身が魅力的な情報を発信する手法を学ぶセミナーを開催しました。また、県内のブランド豚に特化した「ふくしまポークフェス in 桑折」を開催することで、地域と事業者のPR及び町内への来訪者増加に向け取り組みました。

- ◆ 情報発信に係るセミナー(AI 活用・デジタル化)の開催
- ◆ 先進地(沼垂テラス商店街)視察の実施
- ◆ イベント「ふくしまポークフェス in 桑折」の開催(10月12日(日) 桑折町ふれあい公園 来場者延べ 8,500人)

☆ここが自慢です！☆

○桜の聖母短期大学と連携し、桑折町のブランド豚「ロイヤルピーチポーク」を使用した新メニュー開発。

○「ふくしまポークフェス in 桑折」で無料振る舞いを実施しました。



継続

3年目

もとみやロンドンマーケット事業

〈一般枠〉

【実施団体】 本宮市商店街連合会(本宮市)

【事業内容】 本宮市と英国との交流関係を利活用し、英国文化を取り入れながら地区商店街と連携し、多くの市民に足を運んでいただけるよう多彩なマーケットやイベント実施することで、中心市街地活性化と住民参加型の地域づくりのきっかけづくりを行った。

◆ロンドンマーケット・ロンドンワークショップの開催(5月31日)@英国庭園

◆ロンドンマーケット英会話ショッピング(11月～)@本宮市中心商店街

◆商店街ロンドンすごろく大会の開催(12月6日)@本宮市中心商店街

◆商店街アフタヌーンティーコンサート(2月予定)@サンライズもとみや

☆ここが自慢です！☆

○事業を通じて、地域内の子供たちが中心商店街の各店舗を知るきっかけを創出し、その後の来店につながった。

○イギリス文化に触れることで、異国文化への見識が深まり、地域住民の多様性が醸成された。

○子供たちが中心商店街に来ることで、商店街ににぎわいが創出され、市全体の盛り上がりにつながった。



写真左から

- ・ロンドンワークショップ
- ・英会話ショッピング
- ・ロンドンすごろく大会

キッズドリームミュージアムプロジェクト

〈一般枠〉

【実施団体】 一般社団法人もとみや青年会議所(本宮市)

【事業内容】 子どもたちに将来の夢や希望を抱くきっかけを提供することと地域の事業者間交流を促進することを目的に事業を行いました。

本事業は様々な職種の企業様を募り、お仕事体験ブースをご出展いただきました。

子ども達には、お仕事体験ブースにて人生における新しい興味や関心を抱くこと、福島県内の職業についての知識や理解を深め、将来の夢や就職を考えるきっかけを提供することができました。

企業様にとっては、主に本イベントにおける他の出展企業との出会いや情報交換を通じて、事業者間の交流・連携に寄与することができました。

◆「キッズドリームミュージアム」の開催(9月27日、28日 本宮運動公園)

◆ 出展者交流会の開催(8月22日 モコステーション中会議室)

◆ 職業体験を通じて遊びながら、その職業に対して学んでもらえました

☆ここが自慢です！☆

○ご出展企業様が地域事業だけでなく、リーディングカンパニーのANA様や日産様、ソフトバンクなど日本を先導する企業様にも出展いただき事業を盛り上げていただきました。またプロスポーツチームも出展いただき子ども達に選手との交流も図れました。

○来場者アンケートによる事業の認知「口コミ」が全体約30%を占め、3年目の継続開催を通じて来場者の満足度や信頼を得られていたことが伺えます。



出展者交流会の様子



光建設(株)様 出展ブース



福島日産様 出展ブース

令和7年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）【県北地域】『私たち、こんなことやりました！』

竹・農・地再生プロジェクト

新規

〈過疎・中山間地域活性化枠〉

【実施団体】 竹ノ内・赤土地区協議会(二本松市(東和地域))

【事業内容】 竹ノ内集落では福島県の「大学生の力を活用した集落復興支援事業」を活用し、2021年度から2024年度までの4年間、前橋工科大学の都市・地域研究室と連携し、活性化に向けた取組(調査、実験的活動、計画づくり準備)を実施してきた。その結果、空き家の活用を核とした集落活性化の方針を作成した。

その具体的なイメージ内容の実現のための具体的な計画づくり(集落等再生計画策定事業)を2025年度に実施している。

- ◆(基本図面作成、見積もり)
- ◆(空き家活用WS、竹の伐採)
- ◆(フットパスのコース検討、持ち寄り会の試行)

☆ここが自慢です！☆

○事業を通じ、今は使われていない旧小浜街道を見直し、歴史と文化・景観を再確認できた。

○住民交流ワークショップを通じて地域に伝わる食の歴史を学ぶことができた。



令和7年度福島県地域創生総合支援事業(サポート事業)【県北地域】『私たち、こんなことやりました!』

新規

金谷川の再生と未来を拓く事業

〈過疎・中山間地域活性化枠〉

【実施団体】 金谷川地区人づくりまちづくり協議会(福島市)

【事業内容】 私たちの金谷川地区は、福島大学、福島医科大学と2つの大学が移転してきたこともあり文教地区としての発展を期待されていましたが、市街化調整区域のままで令和5年4月には過疎地域に指定されました。令和7年4月には金谷川小学校の閉校も決定されました。

歴史と伝統のある金谷川で継承されてきた文化も、このままでは消滅してしまいます。今それらを記録し後世に伝えることと、住民相互の結びつきを深め「結」を復活させることが金谷川の再生と未来を拓く一端となるとこの取り組みを進めています。

- ◆ 金谷川の歴史と文化を記録し、後世に伝えるための「記録誌」作成
- ◆ 放置竹林の整備と活用を図る「竹パウダーづくり」「竹炭づくり」
- ◆ 各家庭で作られてきた発酵食品「味噌や納豆など」を共同で作り、作り方を継承します
- ◆ 古着活用、古布再生など、伝統的に伝えられてきた「もったいない精神」の継承

☆ここが自慢です！☆

- 毎月、活動を広報紙にまとめ、全住民に配付し、全員参加の土壌を作ってきた
- 共同で行う作業を通して、新しい住民同士の交流が生まれ、金谷川の再生と未来を拓くための取り組みが活性化している。
- 活動報告会に多くの方が参加し、それぞれの班の活動内容を共有すると共に、自分たちで金谷川を盛り上げていく、来年へつなげる意欲が高まっている。



令和7年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）【県北地域】『私たち、こんなことやりました！』

継続
2年目

多様な価値を育む棚田と都市をつなぐ体験交流プログラム

〈過疎・中山間地域活性化枠〉

【実施団体】 布沢集落(二本松市)

【事業内容】 首都圏の市民、消費者に向けた棚田での生き物観察会や稲刈り体験のモニターツアーを実施し、集落、地域との交流を図る。

また、案山子コンクール、棚田コンサート、餅つき交流などを通して、都市と農村の交流と棚田の価値を伝える。

◆棚田体験モニターツアー 生き物観察会(6月28日～29日)

◆棚田体験モニターツアー 稲刈り・はせがけ体験と案山子づくり(10月12日～13日)

◆布沢棚田の芸術祭・収穫祭(11月2日～3日)

☆ここが自慢です！☆

○布沢ビオトープには、ドジョウ、ゲンゴロウ、ギンヤンマとホタルが舞います。初めて見るホタルに感動！

○棚田に並んだたくさんの案山子と棚田コンサート。収穫祭の餅つきと豚汁、新米おにぎりは200食。おいしい楽しい芸術祭！



令和7年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）【県北地域】『私たち、こんなことやりました！』

継続

2年目

大波 DIY プロジェクト

〈過疎・中山間地域活性化枠〉

【実施団体】 大波会(福島市)

【事業内容】 令和6年度、住民参加型の DIY による地域交流スペースを設置した。DIY の取り組みは単なる施設整備ではなく、「地域への愛着や人間関係を築くプロセス」としての意義もあることを痛感した。

令和7年度は、この施設を拠点として、地域住民の交流の場を広げ、課題解決に向けた取り組みを進めることで、新たな関係性を築くこと、そして地域の価値を向上させることを目指して活動する。

- ◆住民同士のつながりを深め、孤立を防ぐ
- ◆地域資源を活かし、雇用創出や地域経済の活性化につなげる
- ◆住民の困りごとを吸い上げ、将来的な地域課題の解決に向けた基盤を整える

☆ここが自慢です！☆

○地区内の高齢者を招き、「あなたの困りごと教えてください」を開催し、交流と課題解決に繋げる機会としました。

○指導者と共にフィールドワークを行い、知っているようで知らないことが多い自分の地域を見直すことの大切さを学びました。



令和7年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）【県北地域】『私たち、こんなことやりました！』

継続

2年目

住みよい石田づくりプロジェクト

〈過疎・中山間地域活性化枠〉

【実施団体】 石田ふるさと振興会(伊達市)

【事業内容】 ◆ありがとう石田小学校(令和 6 年度)

令和5年閉校となってしまった石田小学校を利用して、地域住民と地域を離れた人たちが共に集えるイベントを企画した。

- ・石田小学校に在籍された恩師、卒業生が講師を務め、模擬授業を行った。
- ・さとう宗幸(シンガーソングライター)の「トーク&コンサート」を特別授業として行った。
- ・給食の時間 懐かしい給食を再現し、先着200名に無料で振舞った。

◆石田マルシェ(令和 6 年度～令和 7 年度)

地域団体が連携し、人・食・農をテーマに8店の参加を得て、農産物や手芸品等の販売、石田食堂等、「石田マルシェ」を開催した。2年目は3店増えて、11店の参加により実施した。

新たに6次化商品の開発(おこわおにぎり)、ワークショップ店の参加や常設コーナーの設置など、新たな魅力を加えることができた。

☆ここが自慢です！☆

〇コロナ禍で閉校式へ参加が制限された経緯もあり、卒業生や地区住民、出身者等が一堂に会し、懐かしい校舎、恩師、級友と交流を深めることができた。

〇「リピーターさんが少しずつ増えてきている。」との声があり、目標に掲げた石田のファン(関係人口)の構築につながっている。



令和7年度福島県地域創生総合支援事業(サポート事業)【県北地域】『私たち、こんなことやりました！』

継続
2年目

過疎地域月館ピンチをチャンスに！事業

〈過疎・中山間地域活性化枠〉

【実施団体】 ツキラボ(伊達市(月館町))

【事業内容】 伊達市で最も高齢化率の高い月館町において、次の時代へバトンを渡し、楽しく住み続けていくために次世代の人材育成と生業の継続のための事業を実施する。具体的なアプローチは以下のとおり。

- ・地場産業振興マルシェ(おじフェス)の開催
- ・農と地域の魅力再発見活動(大学生交流)
- ・リノベ廃校の利用促進商品開発

(主な取り組み)

- ◆ 月1開催！東京の大学生受け入れ&地域課題再検討勉強会！
- ◆ 新規ファン層獲得！マルシェはもう飽きた！おじフェス！

☆ここが自慢です！☆

○お金かけずに時間をかけて！口コミ、SNS、チラシの広報戦術で集客ガッチリ！

○リピーターから次世代へ！引き継がれるバトン、大学生の継続交流！

(写真)



(写真)



(写真)



令和7年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）【県北地域】『私たち、こんなことやりました！』

屋敷道(フットパス)の再生、里山資源の再考(再興) による地域活性化事業

継続

3年目

〈過疎・中山間地域活性化枠〉

【実施団体】 北戸沢保全会(二本松市)

【事業内容】 現在は使われなくなった屋敷道(フットパス)を再生すると共に、その持続的な利活用のため、屋敷道に付随して存する里山資源の資源化(薪、炭等)の手法を確立と耕作放棄地への新規作物の試験導入、それらを通じた地域間交流に取り組み地域活性化を目指します。

- ◆ 大学生と連携した地元住民からの聞き取り、交流会の実施、地元神社の神事への参加
- ◆ 耕作放棄地を再生し、新規作物(ホップ)の試験栽培の実施
- ◆ 里山資源の堆肥化についての講座と実習

☆ここが自慢です！☆

○大学生(福島大学岩崎研究室)の発案、協働により事業を実施しています。

○古道の整備だけでなく付属する農林地の有効活用も取り組みつつ、地域の歴史を明らかにする「集落誌」の作成にも取り組みます。

大学生の白鬚神社例大祭への参加



大学生と地域住民の交流会(下)、現地報告会(右下)



里山資源を活用した堆肥製造講座(下)、試験製造(右下)



令和7年度福島県地域創生総合支援事業(サポート事業)【県北地域】『私たち、こんなことやりました!』

継続

3年目

福島市街なか活性化事業

〈市町村枠〉

【実施団体】 福島市

【事業内容】 開催日を「まちなかこどもの日」と位置付け、まちなか広場、福島駅前通り、駅前にぎわい広場等において、ステージショーやワークショップなどの子どもや親子連れを主な対象としたイベントを商店街や近隣自治体等との連携を図り開催し、街なか賑わいの創出とさらなる活性化を図るとともに、地域でこどもたちを大切に
する気運を高める。

◆街なかテーマパークの開催(キッズコンテンツ、ステージショー、ワークショップ、フードコンテンツ)

◆街なかみんなでおもてなし(商店街の協力店舗による限定お子様ランチの提供、スタンプラリー)

☆ここが自慢です！☆

○ロードトレインなどの多彩なコンテンツを準備し、テーマパークに来たような街なかでの特別な体験を親子に提供しました！

○地元の商店街、近隣自治体等と連携し、一体となってコンテンツを提供したほか、スタンプラリーで各イベント会場や街なかを巡りながら
楽しめる仕掛けを用意し、遊び心あふれるおもてなしで親子に街なかの楽しさを発見・体験してもらい街なかの活性化につなげられました！



令和7年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）【県北地域】『私たち、こんなことやりました！』

継続

2 年目

地域の魅力体験合宿事業

〈市町村枠〉

【実施団体】 伊達市

【事業内容】 伊達市の小学5年生を対象に、登下校を含む簡易宿泊所での衣食住の日常生活を共同で送る機会を提供し、自立心や自主性を育むことを目的として実施するものです。

事業の中で、地域ボランティアとの交流や、地域の歴史を知って体験できる活動を行い、伊達市の魅力に触れる機会を提供し、地域に愛着を持つきっかけづくりを行いました。

◆伊達市の旬の野菜・くだものを知る・食べる、伊達の歴史について知るきっかけとします

◆2泊3日の通学合宿体験活動により、共同生活を体験する機会を提供します

◆市内小学5年生を対象に年14 回開催

☆ここが自慢です！☆

○2泊3日、親、学校の先生のいない中で、自分で衣食住を体験出来ること。

○地域のボランティア活動の方と、一緒に調理をしたり交流することができ、世代間交流が出来た。



令和7年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）【県北地域】『私たち、こんなことやりました！』

継続
2年目

未来へつなげる 国際交流都市もとみや発展プロジェクト

〈市町村枠〉

【実施団体】 本宮市

【事業内容】 本市と関係の深い英国との絆を生かした『国際交流』を起点として、子どもたちの視野を広げていく。
児童生徒の自発的・積極的に行動する「生きる力」を育成し、国際交流都市として教育環境の発展を図る。

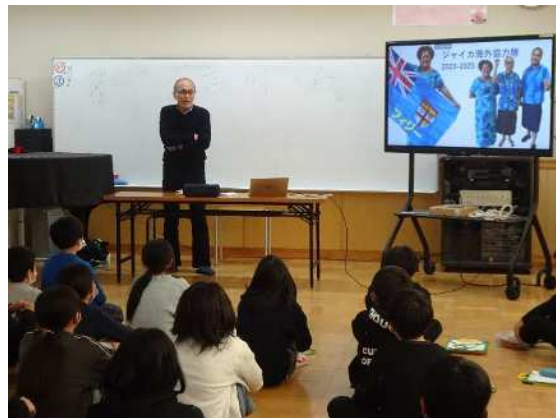
- ◆国際交流推進→ 市内中学生を英国に派遣し、親善活動や現地生徒との交流事業を実施
- ◆国際理解促進→ 市内小中学校で国際理解講演会を実施、国際交流員の放課後児童クラブ訪問、小学校低学年を対象とした英会話・英国文化紹介講座を実施

☆ここが自慢です！☆

○「未来へつなげるもとみや英国訪問団 2025」を結成。市内中学生が英国の関係機関を訪問し、親善活動を行いました。英国ダヴェナント・ファウンデーション・スクールでの生徒間交流に重点を置き、自分から積極的にコミュニケーションを取ることを目的に準備を進めました。日英生徒ペアによる交流活動を初めて行い、終日行動を共にしました。中学生たちは、仲間に頼らず自ら行動することで自信が生まれ、挑戦への恐れを乗り越えることができました。

○市内小中学校では、世界情勢や海外文化を学ぶ「国際理解講演会」を行い、他国の生活や社会について知識を深めました。

○本宮市国際交流員による「放課後児童クラブ訪問」を初めて実施しました。子どもたちは自然体で、海外の方との交流を楽しみました。



令和7年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）【県北地域】『私たち、こんなことやりました！』

新規

こおり宿楽市・楽座事業

〈市町村枠〉

【実施団体】 桑折町(桑折町)

【事業内容】 交流人口の拡大と町中心市街地の活性化を目的として、福島県(桑折町)を始め宮城・山形などの近隣県を代表するご当地グルメや特産品を会場に集め、かつて奥州街道と羽州街道の分岐点として賑わった桑折宿を再現することにより、町民と来訪者等が交流を図れるイベントを開催する。また、令和7年度については、桑折町内に現存する全ての山車が、旧伊達郡役所から役場まで練り歩くことにより、町民と町制施行70周年を祝うとともに、町内外の多くの方に町の歴史と文化に触れ知ってもらう機会の創出を図った。

◆桑折町役場敷地内を活用した「桑折宿」の再現したイベントの開催

◆町制施行70周年を祝し、地域の垣根を超えた町内に現存する全ての山車が町中心市街地を運行

☆ここが自慢です！☆

○宮城・山形を中心に奥州・羽州街道からグルメ、芸能が集結(出店ブースは約40店舗、ステージでは仙台雀踊り等を披露)。8,000人の来場者に町の魅力を発信しました。

○町内に現存する13台全ての山車の饗宴(運行人数は約700人)。行政と町民が共創して、町内外の方に町の歴史と文化を発信しました。

(写真)



(写真)



(写真)



令和7年度福島県地域創生総合支援事業(サポート事業)【県北地域】『私たち、こんなことやりました!』

新規

国見町を巡る観光・消費活性化 PR 事業

〈市町村枠〉

【実施団体】 国見町

【事業内容】 国見町の観光ガイドブック(まっふる国見町)に掲載の、観光スポットやグルメ・お土産スポットなど 34 か所を対象としたスマートフォンによるスタンプラリーを実施。集めたスタンプ数に応じて、桃やシャインマスカットなどのフルーツや、世界大会で最高金賞に輝いたマーマレードなど、豪華町内産品を抽選で贈った。

◆「フルーツのまちふくしま国見町スマホでスタンプラリー」(6月1日～8月31日)

☆ここが自慢です！☆

○町内商店の知名度向上、リピーターの獲得、売り上げ拡大による地域経済力の向上に繋がりました！

○お金が落ちる観光を推進(アンケートによる観光消費額の把握)できました！

○応募特典賞品の「桃」や「シャインマスカット」等の旬な果物や、英国ダルメインマーマレードアワード 2025 で

世界最高金賞と金賞を受賞した「マーマレード」など、町内産品の知名度向上による売り上げ拡大や関係人口の創出に繋がりました！



令和7年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）【県北地域】『私たち、こんなことやりました！』

継続
2年目

“ART×国見町”アーティスティックなまちづくり事業

〈市町村枠〉

【実施団体】 国見町

【事業内容】 ART と国見町を掛け合わせた“ART×国見町”をテーマにした芸術祭を開催。町内外からさまざまな分野のアーティストを招き、町内の3エリアで作品展示や演劇の上演、ワークショップなどを行った。また、県内外から多数の飲食店やカフェ、雑貨店などを招いたマルシェも同時開催した。

町の公式 Instagram アカウントと地域おこし協力隊と連携し、“地域での丁寧な暮らし”をテーマに、SNSで通年にわたり国見町でのリアルな生活を配信。芸術祭の告知のほか、町のイベントや行事等も定期的に配信した。

◆9月14日・15日の2日間にわたり、町内の3エリアで「盆地と里の芸術祭」を開催

◆国見町公式 Instagram アカウント内で、地域おこし協力隊による町の生活やイベント等の定期的な発信

☆ここが自慢です！☆

○芸術祭をととして広く町のPRをおこなった。また、会場を3エリア設けたことで、来場者の町内回遊と町民との交流の機会を生むことができた。

○通年にわたり国見町での暮らしやイベントなどをSNSで配信することで、町のPRにつなげることができた。



令和7年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）【県北地域】『私たち、こんなことやりました！』

新規

やまきや魅力発信事業

〈市町村枠〉

【実施団体】 川俣町

【事業内容】 山木屋地区復興拠点商業施設「とんやの郷」で、各種イベントを通じて、山木屋地区及び川俣町の魅力を発信し、交流人口の増加、地域の賑わい創出並びに地域経済の活性化を図る。また、日頃からとんやの郷を利用する方々の来所も見込まれることから、地元の魅力を再認識する機会を創出する。

- ◆「やまきや縁日」の開催（8月24日 とんやの郷）
- ◆「こだま music フェス」の開催（9月20日 とんやの郷）
- ◆ワークショップの開催（1月25日 とんやの郷）※予定

☆ここが自慢です！☆

- 本事業のイベントを通じ、山木屋地区及び川俣町の様々な地域に伝わる特産品や伝統芸能の魅力を広く発信しました！
- 参加者や住民が直接参加・体験できる内容を取り入れ、魅力を直接肌で感じていただきました！



令和7年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）【県北地域】『私たち、こんなことやりました！』

新規

川俣モノづくり活性化事業

〈市町村枠〉

【実施団体】 川俣町

【事業内容】 近年はモノづくり産業が主となっているため、活力ある産業の創出や情報発信に取り組む必要がある。

令和4年に県立川俣高校の機械科が廃止されたことにより、地域の担い手不足が顕著となっている。将来のモノづくりの担い手となる小中学生含め、地域の子どもたちがモノづくりの魅力を体感することで、企業の人材確保や、モノづくり企業の発展につなげる。また、町内企業が情報発信する場を設け、町内外に向け魅力を発信する。

◆町内のモノづくり企業を巡るオープンファクトリー(11月8日 町内小学生参加)

◆お仕事体験ブースの設置(11月8日、11月9日 川俣高校にて公開文化祭と同時開催)

◆町内事業者の企業紹介パネルの設置(11月8日、11月9日 川俣高校にて公開文化祭と同時開催)

☆ここが自慢です！☆

○町内の小学生が、地元企業3社を巡り工場見学とお仕事体験を通し、モノづくりの魅力を体感しました。

○地元のモノづくり事業者5社がお仕事体験ブースを出展。2日間ともに多くの方に来場いただき、各ブース大盛況でした。



令和7年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）【県北地域】『私たち、こんなことやりました！』

【実施団体】大玉村

【事業内容】大玉村は、世界遺産マチュピチュ遺跡を有するマチュピチュ村と平成27年10月26日に友好都市協定締結したことを契機に交流を進めており、令和7年に節目の10周年を迎えた。

令和6年度実施分では住民参加型の記念式典・交流会を開催し、10周年に向け住民の国際交流への理解を図った。今年度は10周年を記念し、大玉村出身のマチュピチュ村初代村長野内与吉氏の顕彰プレートをマチュピチュ村へ設置する事業を実施し、住民の国際交流に対する興味・関心を高めるとともに、国際交流への理解を醸成し、国際交流人口の増加・活発化を図ることを目的とする。

- ◆マチュピチュ村との友好都市協定締結10周年記念事業「野内与吉顕彰プレート除幕式ツアー」の実施
- ◆「野内与吉顕彰プレート除幕式ツアー」報告会の実施
- ◆友好都市締結から10年の歩みを記したパネルの展示 等

☆ここが自慢です！☆

○一度は訪れてみたい世界遺産を有するマチュピチュ村と友好都市協定締結10周年を現地で祝うことで、国際交流に対する興味関心を多くの村民・県外の村出身者から集める機会となり、国際交流事業を広く周知できました。

○SNS等を活用しツアーの様子をリアルタイムで発信することで、交流事業の内容を詳細に伝え、理解・機運醸成に努めました。



記念式典（顕彰プレート除幕式）



報告会（除幕式ツアー）
令和7年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）【県北地域】『私たち、こんなことやりました！』



パネル展示（10年の歩み）

継続
3 年目

ふくしま三大鶏振興事業

〈市町村枠〉

【実施団体】 ふくしま三大鶏振興協議会(伊達市)

【事業内容】 福島県には、会津地鶏(三島町)、川俣シャモ(川俣町)、伊達鶏(伊達市)と3種類のブランド鶏がある。これまでは、生産地の所属する自治体単位でブランド鶏のPRや販売促進活動を実施してきたが、生産地の所属する自治体を始め、生産者や加工業者が一致団結し、市町の枠組みを超えて福島県内のブランド鶏を結集した「ふくしま三大鶏」として、各自治体が主体となったイベントの開催やPR活動を実施、販売の促進につなげた。

ふくしま三大鶏フェスを令和 5 年度は三島町で、令和 6 年度は川俣町で、令和 7 年度は伊達市で開催した。

◆第 3 回ふくしま三大鶏フェス in 伊達市「保原総合公園」の開催(令和 7 年 9 月 27 日～28 日)

☆ここが自慢です！☆

○フェスをとおして、東京や仙台の超有名店の出店や、インフルエンサーによるライブ発信など、県内外に三大鶏の魅力を発信しました。

○OLP や SNS を立ち上げ、早くから情報を発信して、過去最多の来場者数 2 万 3 千人へとつながった。



フェスの開会式



フェスの会場



三大鶏を提供する出店者



ライブ配信

令和 7 年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）【県北地域】『私たち、こんなことやりました！』

継続

3年目

親子スポーツ・健康事業

〈市町村枠〉

【実施団体】 桑折町

【事業内容】 子どもたちの体力低下が懸念されることから、すべての子どもたちに身体を動かす機会を提供し、「運動すること」を身近な存在にする。親子で楽しく遊びながら、身体を動かす気持ちよさや楽しさを感じてもらうことを目指す。

最終的には、子どもたちの運動意識の向上を図ることで、健康な体づくりにつながることを若いうちに学んでもらい、将来的な健康寿命の延伸を図るとともに、親の運動習慣の定着を狙いとする。

◆ボール遊び推進事業

◆こおりヘルスアップ DAY2025

◆親子運動教室(予定)

☆ここが自慢です！☆

○事業を通じ、子どもたちに運動することの楽しさを知る機会を提供しました。

○ボール遊び推進事業では、子どもだけでなく親子で運動遊びを体験し、家庭内でも運動機会が得られるように遊び方を学びました。



令和7年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）【県北地域】『私たち、こんなことやりました！』

新規

かわまたいきいき健康長寿プロジェクト

〈市町村枠〉

【実施団体】 川俣町

【事業内容】 町における将来的な健康寿命の延伸化を目指し、各種イベントを通じて、町民の健康意識の醸成を図る。

子育て世代から高齢者世代まで多くの方が参加し、体操教室やスポーツ体験、減塩メニューの試食などを通して、楽しみながら健康増進につながるような取り組みを行った。

◆ 「かわまた元気まるごとフェス」の開催(8月2日 川俣町中央公民館)

親子向け体操イベント、医師講演、健康測定、減塩メニュー試食

◆ 「里山健康教室」の開催(9月27日 峠の森自然公園)

アウトドアヨガ、乗馬体験、アウトドアスポーツ(モルック、スカットボール)、栄養士講話及び減塩レシピの軽食

☆ここが自慢です！☆

○親子向けイベントを実施し、多くの子育て世代が参加したことで、若年層の健康意識醸成に寄与しました。

○なかなか体験できない乗馬やニュースポーツ体験と減塩レシピの組み合わせにより、ストレス解消と健康増進を図りました。

